



## 未来の道

高校2年 古谷野雄大

やっと、やっと、やっと！11ヶ月の留学生活に幕を閉じた。この約一年間の留学を成し遂げた後の爽快感は大きい。留学というのは言語の上達のためだけではないと私は考える。それは追々話すとして・・・

留学をしたことがあると、カッコイイという風潮がなぜかある。Agree.何となくではあるがそう思う。一年間異国の地で知らない人と楽しい時間を共に過ごし、一年前の自分とは比べ物にならないほど成長して帰国する。(アクセサリを鬱陶しいほどぶら下げ、いかにも外国かぶれをアピールする人もいるが・・・) 私の場合はそれとは異なった。まさに地獄のような世界であった。その理由の一つとして友達づくりの困難さがあった。

学校初日、今まで経験したことのないような緊張に襲われた私だが、校長先生の紹介を経て日本語を学ぶ好青年と友達になった。リセス(2と3時間目の間)とランチの時間に、その子が所属する仲間に入るようになった。早速友達が出来たとハイテンションな私をどん底まで叩き落したのが彼らの英語である。何語？これは私がすぐさま感じたことである。英語に対して特別な自信があった訳ではないが、何も聞き取れないことに対するショックは尋常ではない。何を話しているのか質問するにも、話の流れをいつも邪魔する形になり、とても辛かった。それがきっかけで自分の殻に閉じこもり何も口に発せず、静かなつまらない子という悪い印象だけが付き始めていった。食べ物を口にすれば喋らずに済むため、お腹が減っていないのに食料を購入し、終いには食べていないと落ち着かなくなるぐらいまで追い込まれていった。週末遊ぶ友達も皆無で朝から夜まで家に居るしかなかった。それにもかかわらず、勉強などやること全てが手につかない状態だった。精神的に壊れる寸前だった私は、時間だけが過ぎていく現状に戸惑いを隠せず途方に暮れていた。

ある日、自分自身に質問をしてみた。「お前は どうしてここにいるんだ」と。要は初心に戻ってみようとしたわけだ。初心に戻ったことで自分を客観的に見ることができた。もし私が現地校の生徒の一人だったら、殻に閉じこもった人と友達になろうとしたらどうか。答えは明らかにNo.こんな静かで何考えているかわからないような奴はこっちから願い下げだ。いろいろとこの現状を乗り越えようと試行錯誤していた私は、最終的にスピーチをしようと決断した。しかも全校生徒の前で・・・私の名前が呼ばれスピーチをするまでの沈黙の間。あの時は心臓が止まる寸前だった。体に悪い。

スピーチの結果は大成功。たった五分の出来事であら大変！ 有名人！ 自分でも良くやったと褒めてあげたいぐらいだ。Hi! Yuta と私に会うごとに声を掛けてくれたり、日本もしくは私自身に興味を持ち始める子がいたり、それからの日々はとても充実していた。

文化交流を通してオーストラリアの文化はとても興味をそそるものであると感じた。オーストラリアは膨大な量のスラングを持っている。異国からの私にとっては未知の世界でしかなかったのだが。Afternoon を Arvo そして Good day を G' day と、とにかく省略するのが大好きな

国民性らしい。ほとんどの人は細かいことなんて気にしない。だからこそ何事にも直球で物事をいう。まず気遣いという概念が皆無なのであろう。日本人の私にとってはとても扱いにくい人々であった。

そんな私にも親友と呼べるような友達が出来た。Josh と Ethan である。勉強が得意なタイプではないが、人間としてとても魅力的な存在であった。我が道を堂々と生きる、それが彼らのモットーであった。特に Josh は作文やスピーチの才能に長けていた。

ここでまた深く考えさせられた。人間としてカッコよく魅力的になるには何が必要なのか。一年間考えたところですぐに答えを出せるような簡単な質問ではないが、少なくとも今の自分はそうではないということに気づいた。留学する前の自分はサッカーと勉強のみに集中して、いわゆる“充実した生活”を送っていた。ただ、オーストラリアに来たことで今まで経験したことのないようなことを目の当たりにし、自分の無知に気が付いた。経験したことがないというのは知らないということとほぼ変わらず、“充実を装った生活”の中で無知を無視しながら生きてきた。決して悲観的になったわけではなく、寧ろいろんなものを吸収しようと心を決めた転機となった。

そんな経験を経て日本に帰って来た私は早速逆カルチャーショックに襲われる。日本の気遣いにはとても疲れさせられる。思ってもないことを口にして相手を傷つけないよう努力する。ありがとうと感謝すればいいというところを、わざわざすみませんと言うなど。本音と建前を見分けるのは気がめいる。一番私を落胆させる出来事は金髪美女との関わりがほぼ皆無になるということ。冗談ではない。これから日本男児と時を共に過ごす生活に戻ると想像するだけで憂鬱になるのは隠しようがない。

ただ自分は日本人に生まれてとても幸せであると感じる。確かに顔の成り立ち、骨格、筋肉の付き方などアジア人として終始劣等感を感じてきた。スポーツをやっているときなど運動神経の差は格段である。ある時は、人種差別もされた。目が小さい、鼻が低い、顔がでかいなど私のせいではないことであるのに。「お前の顔、電気プラグみたいだな」(オーストラリアでは三つの穴がある) これを聞いた時は悲しくなるのを通過して思わず吹き出してしまった。こんなのを一回一回気にしていたらきりがなく、確実に鬱になる。何故気にしないでいられたのかというと、自分の日本人としての長所またはアイデンティティを見いだせたからである。先ほど日本人の気遣いは気がめいると言ったが、オーストラリア人の直球さと日本人の気遣いがうまい具合に混じり合って、気配りがうまい日本人として私のことを見てくれるようになった。You are really cute and kind.と金髪美女は私を評価した。Cute と言われるのは確かに不本意ではあるが、徳のある人には自然と人が寄ってくるのだと感じた。日本文化、人柄そして機転が利く頭の良さなど、誇りに思えることは山のようにある。

結局最後は親への感謝。学校から帰ってきて留学したいといきなり言った私を親はどのように思っただろうか。今思うと本当に身勝手だなとも思う。最終的に親を説得したが金銭的に迷惑をかけたのは間違いない。出国寸前まで喧嘩して、留学中は恋しくなって、また帰国すると喧嘩する。相変わらずの関係だけど喧嘩が愛情の表現なのだなどつくづく感じる。なんでも私のためと思って動いて何があっても自分の味方でいてくれる。たとえ6,821キロメートルと物理的に離れていたとしても。助けてくれたのは親だけではない。オーストラリアのホストファミリーにはいくら感謝しても足りないだろう。言葉が通じない赤の他人を快く受け入れてくれる人なんて滅多にいない。異国の若者にオーストラリア独自の文化を体験してもらおうと利

他的に動くのは心が広すぎる。この場を借りてお礼を申し上げたい。友達、家族など大切なものがそろって初めて自立するのだと改めて思った。

17歳にしてこの貴重な体験をした私は、人間的に飛躍的成長を遂げた。高校2年生という学校生活において一番充実するであろう時期をわざわざ捨ててまで、海外に単身で飛び立ったのは有意義であった。人生あれもこれも欲張っていたら結果として得るものはほぼゼロに近いと思う。学校の勉強やサッカー部の一員として一からやり直したが、正直なところ怖いものはない。自分の自信は全く根拠のない存在だが、なぜか一番頼れるのだ。

### この夏、UWC香港校に行きませんか

UWC (United World College) 香港校で、「日中青年会議」を企画しています。日本・中国本土・香港の中高生を対象とし、政治的・宗教的に中立な一週間のプログラムで、相互理解を深めていくというものです。基本、英語が共通言語となります。

以下に要綱の一部を掲載しておきますので、興味のある生徒は2月8日(水)までに、グローバル教育部を訪ねてください。

1. 募集人員 日本人20名、および中国人(中国本土17名と香港13名)30名の中学生・高校生(計50名)
2. プログラム期間 2017年7月21日(金)～7月28日(木)  
(計7日間。出発日・解散日を含む。)
3. 開催場所 UWC (United World College) 香港校
4. 応募資格 日本人、中国人(中国本土と香港)、または日本もしくは中国(中国本土と香港)に永住権を持つ外国人等で、2017年7月の時点で、中学校、高等学校、高等専門学校またはこれに準ずる学校に在籍することが確実な者。
5. 応募方法 2017年度の募集要項を確認の上、オンライン応募フォームから応募。また、フォーム送信の際は指定のエッセイ、同意書を記入して添付すること。
6. 選考スケジュール(予定)  
一次締め切り:2017年2月26日(日) (結果通知:3月末)  
二次締め切り:2017年4月14日(日) (結果通知:5月1日)  
※一次締め切りまでに応募書類をご提出した中から7人を上限に合格者のみ通知。  
一次までに応募して合格通知のなかった人と、二次締め切りまでに応募した人と共に再度、審査。その際に応募書類の編集は認めない。  
なお、一次・二次締め切りにおける応募書類、審査基準に違いはない。
7. 選考方法  
各応募者につき日中青年会議委員会の少なくとも3人以上の選考委員が応募用紙を読み、エッセイの質などをもとに公平に評価。書類選考の結果は、応募フォームに記載されている連絡先にEメールにて通知。面接選考ではskype面接を行う。結果は、決まり次第Eメールにて通知。
8. 経費 (1) 日中青年会議委員会負担経費 宿泊費、活動費などは日中青年会議委員会が負担。  
(2) 個人負担経費(約11万6000円程度):

日本～香港間の往復旅費 約6～8万円  
参加費(食費) 1700香港ドル(2万6千円程度)  
小遣い 約5千円  
海外旅行保険費 約8千円

### グローバル教育部講演会

恒例となりました「グローバル教育部講演会」を今年も下記のように開催いたします。今回は、留学カウンセラーとして著名な西澤氏(近畿日本ツーリスト 海外留学・進学コンサルタント)をお招きします。西澤氏の講演は2回目となります。高校留学・海外大学進学の意味、さらには、アメリカの教育事情などについてもご講演いただくことになっております。

日時 2月25日(土) 午後1時30分～3時  
場所 本校講堂(変更する場合は、校門付近に掲示します。)  
上履きのご用意と管理をお願い致します。

講演者 西澤めぐみ  
講演内容 高校留学・海外大学進学の意味、アメリカの教育事情  
海城高校留学制度について(グローバル教育部より)  
対象 本校生徒及び保護者

なお、ご家族、あるいは生徒諸君のみの参加でもかまいません。あらかじめ質問事項などございましたらご遠慮なくお寄せ下さい。出来る限りお答え致します。参加申し込みは、必要事項を記入して2月22日(水)までに各担任もしくはグローバル教育部にご提出下さい。皆様のご参加をお待ちしております。

#### 西澤めぐみ プロフィール

高校1年生のとき交換留学奨学生として単身渡米。高校卒業後、全米トップ100に入る総合私立大学のプリガムヤング大学(ユタ州)に入学、国際関係論の学士号を取得。マドリッド大学(スペイン)に一年間留学後、外資系大手企業に勤務。通算10年間アメリカに滞在し、アイビーリーグのイエール大学(コネチカット州)、コーネル大学(ニューヨーク州)をはじめ、デューク大学(ノースカロライナ州)、コロラド大学(コロラド州)、ダラムコミュニティカレッジ(ノースカロライナ州)などアメリカ各地の多様な大学・大学院に留学した。その経験をもとに25年前から日本人学生やビジネスパーソンの海外留学をサポートしている。国家資格2級キャリア・コンサルティング技能士、産業カウンセラー協会認定産業カウンセラー資格を持ち、就職につながる留学を強く提唱。不登校児に対する海外高校留学(リカバリー日本留学)のサポートにも取り組む。コーチング資格を取得し、コーチングセミナー講師としても活動している。

「海外留学・海外大学進学講演会」参加申込

\_\_\_\_年\_\_\_\_組\_\_\_\_番 生徒氏名\_\_\_\_\_

※参加者に○印をおつけ下さい。

・生徒本人( ) ・家族( )

参加者数合計\_\_\_\_\_人

※質問事項をお書き下さい